

# わたしたちの人権

90

だれもが人間として生きていくうえで侵すことのできない当然の権利これが「人権」です

あの橋のような町をつくらう

人権を考える町民の集い



(写真) KOYOバンドの上田幸洋さん(右)と芹口昭浩さん

7月23日、千寿苑で人権を考える町民の集いが開催されました。今回の町民の集いは、KOYOバンドによる人権コンサート。会場を訪れた約200人の参加者が、歌とトークに耳を傾けました。

KOYOバンドは、1991年(平成3年)の湾岸戦争開戦を機に、当時の矢部同和保育園の保護者が、音楽を通して戦争反対をうたったようにと結成されたのが始まりです。町民の集いでは、「ポーカー・ギターの 上田幸洋さん(城平)が、「黄色い長ぐつ」や「幸せの種をまこうよ」など10曲を熱唱。会場の参加者も一緒に歌ったり手拍子をしたりして、歌詞に込められた思いを感じ取っていました。また、歌の合間のトークでは、身近な人権問題や国内での昨今の人権問題の話を通して、「自分の中の差別心に気づいてほしい」などとうたったえかけました。

## 来場者の感想

口に出して言うだけならば誰にでもできるが、実際に自分自身で動くことができ、それが重要であり、そのように行動に移すことのできる人が増えていかないと差別はなくなりません。また、身近なところでも差別がおこっているが、その実態などを知らない人も多く、そのような実態を知り、皆で考えて行動し、差別やいじめをなくしていかねばならないと感じた。何気ない一言であっても相手を傷つけてしまうということとはよくあるが、それを注視してくれる人の存在が差別をなくす第一歩につながると思った。

(矢部地区/20代男性)

ソンドの歌が聞けてよかったです。幸洋さんの歌や話を聞いて、人権について考えさせられました。普段生活している中で、自分では気づかず差別をしているかもしれないと思ったり、とても怖くなりました。言葉ひとつひとつ、考えて話してみようと思いました。

(清和地区/20代女性)

上田さんの話(歌)を初めて聞きました。「皆さんはどう思いますか?」という問いかけが心にしみました。差別のない町づくりに向けて頑張ろうという気持ちが湧いてきました。

(蘇陽地区/30代女性)

## 季節のうた

### 清和短歌会

盆くれば離れ住む子ら帰り来る  
若き日浮かび想いひろがる  
梔子の花咲き誇る朝の道

藤島みつ

「蒔いてネ」と花種子配り友は逝く  
その名香りを孫に教ゆる  
ヒコタイ育つを窓越しに見る

野中まら子

### 馬見原酔山会

安木節踊る足どり田草引く  
桃熟れて山から子猿相伴に  
サラダまで永い道のり初胡瓜

岩永周子  
工藤美智子  
畑野フミヨ

### やまなみの会

深山なるあざみの色の濃紫  
木戸口に沢蟹走る梅雨入りかな  
生と死は隣あはせや明易し  
車窓から見る山々の彩りは近くは緑遠くは青く  
山裾にふわりと霧は這う如く  
明かりぼんやり雨上がりの景  
壕あとの岩石残る丘にたち  
島原の乱の歴史を偲ぶ

岩崎延枝  
今村芳子  
赤澤富美子  
本田健二郎  
木下スエオ

### 通潤句会

同じ風吹きて植田と減反田  
仏心の濃き日淡き日新樹光

今村芳子  
田中かつみ  
西田えい子

## 書道

自然風月情無盡如在  
山林樂未央

和光教室書道部の片山久男さん(須原)作



山都町観光案内所  
ギャラリー喫茶  
ルポン  
☎72-1054

～ 9月ギャラリーのご案内～  
「水彩画展」  
9月1日(土)～9月30日(日)

## 訂正とお詫び

広報やまと7月号(7月25日発行)において、記事に誤りがありました。関係者のみなさまには大変ご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正します。

- (23ページ)8月の当番医院 内  
(誤)「野田医院(電話 75-0307)」  
→(正)「野田医院(電話 72-0307)」
- (誤)「矢部広域病院(電話 83-1121)」  
→(正)「矢部広域病院(電話 72-1121)」
- (誤)「瀬戸病院(電話 72-0111)」  
→(正)「瀬戸病院(電話 75-0111)」

## 山都町の人口

(平成24年7月31日現在)

男 8,446人 (+8)  
女 9,070人 (+46)  
計 17,516人 (+54)  
世帯 6,770戸 (+46)

※( )は前月比。住民基本台帳法の改正に伴い、今回から外国人住民を含んだ数値になります。  
※最高齢は106歳〔女性1人〕  
※1月1日～7月31日の出生届数43人(うち7月は7人)  
※1月1日～7月31日の死亡届数179人(うち7月は20人)